



# 健康と医療費を考える

△医学の進歩がもたらすもの▽

現在の日本の医療は、大まかにいえば世界的な水準に達したといえるでしょう。昔だったら治らないうとあきらめていた多くの病気が、医学の進歩によって治るようになっていきます。

国民の幸せを測る基準の一つに「長寿であること」がありますが、男性七十四歳、女性七十九歳という高い平均寿命を日本が誇っているのも、医学の進歩による貢献が相当大きいと考えられます。

将来の医療について予想することは非常に難しいことです。しかし、相当な進歩を続けるものと思われまます。インターフェロンの応用や遺伝子組換えなどの技術、エレクトロニクスやコンピューターといった一般科学の医療面への応

用などが開花していくでしょう。

と同時に、これからの日本はこうした医学の進歩の貢献もあって、高齢者が極めて多くなるものと予測されています。

社会の高齢化と医学の進歩——この二つにより、国民医療費はこれからますます増加していくものと考えられますが、その一方で、国民医療費を支えている経済||国民全体の収入がそれほど伸びないという心配があります。

## 医療費適正化の必要性

### 医学の進歩や社会の高齢化に対応するために

△医療費の増加を抑える努力▽

つまり、現在わたしたちは医療

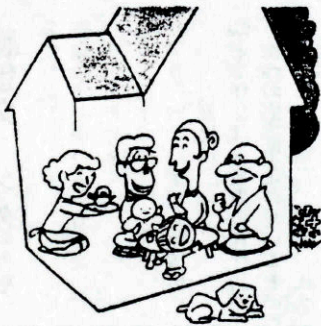
のレベルを高めながら、一方で医療費の増加を抑える——というジレンマに陥っているのです。これを克服するための方法には大まかにいうと次の二つがあります。

①今の医療費や医療に従事する人びと、設備の配分、使い方に無駄や非効率がないか徹底的に点検し、圧縮していくこと

②高齢化社会を迎えても社会全体が活力を維持していきけるよう、健康管理の方法や医療制度を改革していくこと

医学の進歩や高齢化社会を支えていけるだけの国民医療費を確保し充実させていくには、医療費を適正な規模にまで抑える工夫と努力が必要です。

またこれからは、治療はもとより、予防や健康管理が、豊かで健康な毎日を送るうえで重要なものとなってくるでしょう。



## 医療費の適正化と健康づくり

### 病気の予防から「健康増進」へ

わたしたちが使う国民医療費は毎年一兆円ずつ増え続け五七年度は、一人当たり約一二万円、国民全体では一三兆八千八百億円にのぼると見込まれています。このままの状態が続くと、今後、必要な医療を確保するために、一人ひとりの保険料や、税金の負担を大きくして、医療費の増加分を補う必要がでてくるかもしれません。

そうならないようにするために、医療費の無駄をなくし、増え続けている医療費を適正な規模にまで抑える必要があります。もちろん、医療の「質」を落とさずにです。

この「国民医療費の適正化」という目的を達成するため、厚生省に「国民医療費適正化総合対策推進本部」が置かれ、対策が講じられています。しかし、それを実際に、しかも効果的に行えるのは、医療の受け手であるわたしたち自身であるといえます。

それでは「膨れ上がった医療費を適正な規模にする」ため、わたしたちにどんなことができるでしょう。

△基本は病気にかからないこと▽  
医療や健康の問題は、次の三つの段階に分けて考えることができます。

①病気にかからないための予防や積極的な健康増進

②病気にかかったときの治療  
③治療が終わったあとの注意  
いままでは、このうち②の治療に重点が置かれていました。病気になったとき、安心して必要な治療が受けられることはとても重要なことです。しかし「予防にまさる治療はない」という言葉にもあるとおり、最も基本的なことは病気にかからないことです。

そのためには「予防」からさらに進めて「健康の増進」を図ることが大切です。わたしたち一人ひとりが自分の健康は自分で守るという自覚を持ち、バランスのとれた食事・規則正しい生活を心がけるなど、病気にかからない生活習慣を確立することです。

一方、健康診断や保健指導などを積極的に受けて、病気の早期発見に努めることも大切なことです。こうした、わたしたち一人ひとりの健康増進に対する心がけが、医療費の適正化につながっていくのです。

